

書燈

2017年 No. 51



「書評のすすめ」



平野 智久
経済経営学類

学術情報課より「リニューアルした図書館を利用して」という題名での寄稿依頼がありました。増築・改修工事前の記憶はあやふやですが2012年10月に着任した時点で、会計学(財務会計論)を専攻する筆者にとって、蔵書は充実している印象を受けました。さすがは高商～経専～経済学部と受け継いできた証左か、関連する本がきちんと揃っている図書館とは心強いものです。これまでに本学で教鞭を執った先生が一冊々々吟味していった賜物であって、しきたりを絶やしてはならないと出版社の新刊情報に気を配る毎日です。

さて、本学図書館の蔵書は90万冊を超え、2015年度には7千冊を受け入れています。学生向けの新着本は本館2階「開架閲覧室」手前に1～2ヵ月は置かれますので、選書した新刊がさっそく手に取られ貸し出されていくと嬉しく思います。しかし次の「新着」が届けば、それらはNDC(日本十進分類法)順に配置されます。近年はカバーを取り外さずに書架へ並べられ、出版されて時間の経った本と並べば「埋もれる」ことはないものの、背表紙しかパッと見えない状況から目的の本に辿り着くことは簡単ではないかもしれません。ここでの「目的」とは「〇〇について述べられた本を読みたい」という段階です。これまでの文脈に逆行するかもしれませんが、埋もれた本にも一読の価値があるかもしれませんし、新刊だからといってすべて

が大学生の学習や研究に有用かはわかりません。実のところ筆者はむしろ、「何十年後に誰かが読みたいかもしれない」という観点で選書しています。「会計学は制度がコロコロ変わって(良くも悪くも)大変ですね」という声を耳にすることもあります。侃侃諤諤の議論から現行制度は生まれたと考えれば、歴史家でなくとも過去の議論や先達の主張を渉猟することには意味があるはずです。

とはいえ、〇〇に関する本のすべてに目を通すことはもちろん容易ではありません(現状では、そもそも学類生諸君は書庫に入れません)ので、「書評を眺める」探索を勧めます。会計学の場合には、『企業会計』『産業経理』『会計』『会計・監査ジャーナル』といった定期雑誌に掲載されており、出版から1～2年の新刊について各領域の専門家が1～2千字程度で執筆しています。著者の紹介、章ごとの要約に言及したのち、評者の感想や疑問を述べて締め括る形式が多くみられます。直接は関心のなさそうな本でも、書評をとおして内容を気軽に把握することができます。同じ本を複数誌が取り上げていれば、一方の評者は褒めているのに他方はそうでないことも間々あります。評価が割れた理由を考えながら現物を手に取る(書庫にある本もカウンターで申し込む)、という読み方も大いに「あり」でしょう。

工事を経て、多くの和雑誌や他大学の紀要を開放的な新館1階で閲覧できるようになりました(着任当時はそういえば、一部が未製本のまま雑然と置かれていました)。特定の1冊が決まっていれば、書評の掲載誌やその他の研究成果はNDL-OPACやCiNii Articlesなどで簡単に検索できます。叙上の4誌も数十年前の巻号から手に取ることができるので、「当時はこういう本が読まれていたんだなあ」という時間のすごし方もまた一興です。

リニューアル後の図書館利用のご紹介

2015年7月に図書館がリニューアルして、約2年が過ぎました。
静かな場所で本を読んだり、グループ学習でラーニングcommonsを利用したり、
展示を眺めてみたり…、そんな図書館の一部をご紹介します。
みなさんもぜひ、自分に合った使い方を探してみてください！

ラーニングcommons1(本館1階)



いつも賑わっている
場所ですが



学生主体の企画から、
大学の催しまで、様々な
イベントが開催されることも！

ロビー・資料展示エリア(本館1階)

様々な展示で利用されています。お申し込みは図書館2階カウンターまでお早めにどうぞ。



書道部「文月展」



福島ビエンナーレ



環境放射能研究所の
活動紹介

図書館2階のゲートの先には様々なスペースが用意されています。目的に合わせて、図書館を使いこなしましょう！

スタディールーム(新館3階)



1～4名で使える学生専用の
学習個室【要申込】

パソコンエリア(新館2階)



PCや図書館資料を使った、
レポート作成に。

開架閲覧室(本館2階)



静かに集中して学習
したい時に。

セミナールームA/B(新館3階)

大型スクリーン・プロジェクタ完備。



予約が入っていないければ、自由に使えます！

予約して、グループや授業で利用することもできます。



学びのナビゲーターによる「レポートの書き方」出前授業

その他、紹介しきれなかった場所もあります。まだ行ったことのない方はぜひ図書館内を探索してみてください。

学びのナビに行ってみよう！ 〈図書館2階 ゲートすぐ〉

“学びのナビ”は学生の学習支援スタッフ「学びのナビゲーター」の活動拠点で、図書館2階にあります。
「学びのナビゲーター」は、ここを中心に様々な活動を展開し、学習に役立つ情報を発信しています。ぜひ一度、足を運んでみてください！

H29年後期・相談窓口対応時間

	月	火	水	木	金
1					
2	○	○	○		○
昼	○	○	○		○
3	○	○	○		○
4					
5					

相談窓口

学びのナビゲーターも随時募集中！



毎週決まった時間に学びのナビゲーターが常駐。こんな質問してもいいのかな？と躊躇した方も心配無用です。気軽に声をかけてください！

自主学習支援

「自主ゼミ」の支援、「自己学習プログラム」の開発など、一から相談に乗ります！

教養演習を受け持つ先生方にオススメ！

- レポートの書き方など、グループワークを取り入れながら、学生目線での授業を実施しています。
- 学びのナビゲーターの他、総合教育研究センターの教員、図書館の職員がバックアップします。お気軽に、学びのナビまたは図書館までご相談ください！



12名の「学びのナビゲーター」がお待ちしております！
他の学類生と話をしてみたいという方も声をかけてください。

授業連携

イベント

学習に関するイベントを企画しています。ライブキャンパスや図書館内の掲示などでも案内するので、気軽に参加しましょう！

展示

ミニ展示やホワイトボードの書き込みなど、図書館に来た際は、のぞいてみましょう。



活動の様子やイベント情報、ちょっと気になる時事ネタなどを定期的に配信！
「福島大学 学びのナビ」で検索できます。

twitter



facebook



藤森照信、という名前を聞いて思い浮かべるイメージは、その人の様々な背景を照らし出すんだろうと思います。とはいえ、藤森照信なんて名前、初めて聞いたよ、って方もいるでしょうし、あー、名前だけナンカ聞いたことあるかも、って方もいるでしょう。

これから紹介する藤森さんは、抜群に面白い方なのです。こりゃ、ホントにですよ。

ボクが初めて藤森照信の名前を認識したのは、ちくま文庫版の『路上観察学入門』だったと思います。たぶん、学部2年か3年かそれくらいだったかと。当時、赤瀬川源平さんという芸術家になんとなく興味を持って、赤瀬川さんの本（これまた、ちくま文庫版の『東京ミキサー計画』や『超芸術トマソン』とか）を面白がって読んでいた時期でした。赤瀬川さんもズバ抜けに面白い人で、白衣を着た人たちが路上を雑巾でゴシゴシやってるそばをサラリーマンがスタスタ歩く、っていう写真を見たことある方もいるかも知れません。それとかやってる人です。

そんなカンジで、突飛でクダらないことを超マジメにやっちゃうことで、世の中のねじれを捉えて本質を突く、ということをする人が赤瀬川さんでした。その赤瀬川さんが藤森さんと組んだのが、路上観察学会でした。なんでボクがそうしたものに惹かれたかという、世の中の定まった枠組や見方なんかを、ひょいっと捨て去って、自由にものごとを捉えてみせる、そうした解放感と鋭さに、「アチャー、ヤラレタ!」「ウンウン、ソウクルカ!」とドキドキワクワクしたからだったと思います。

その後、藤森さんと再会したのは、学部4年か修士1年の頃で、またまたちくま文庫版の『建築探偵の冒険(東京篇)』を、何かのきっかけで読んだことだったかと。そこで藤森ワールドに魅せられ、「建築探偵」シリーズが朝日文庫などになっていたのを、これを順次買って楽しみつつ「ウー、いいなあ」とココロ躍らせていたのです。そんなのだから、ボクの藤森さんの印象は、ヘンテコなことをしている人（で、大学のセンセもしている）というものでした。

そんなカンジで浮ついていたボクだったので、大学院に入ったばかりの頃には、まだ研究の厳しさを肌身で感じてはいませんでした。しかし、修士1年の秋ごろになると、どうやらボクが考えていた研究は、大学院で行う学術としての研究とは違うらしいということに、徐々に気付き始めてきました。その頃に、藤森さんと3度目の再会をしました。

それが、藤森照信『明治の東京計画』（岩波現代文庫）です。当初抱いていた修士論文の構想が研究にはならないと自他共に認識し、途方に暮れていた11月か12月の時期でした。ある種、研究からの逃げのような形で買って読み始めたのが、『明治の東京計画』だったと思います。ところが、読んでビックリしたのが、そこでの藤森

さんは、ヘンテコなことをしているフジモリさんではなく、厳然たる学術研究者としてのフジモリさんだったのです。何よりも衝撃を受けたのが、『明治の東京計画』に当時の会議の発言らしいものが、引用されていることでした。なんでそんなのがわかるんだよ!と思ったから、「国立公文書館蔵『太政類典 第二編 第百十四卷 地方二十 土地処分七』」、「東京都公文書館蔵『建築事務御用留 明治五年二月』甲乙」、「早稲田大学蔵『大隈文書』中の明治一二年一〇月付 火災保険委員伊藤徹・河出良二発大蔵卿大隈重信宛建議書『家作制限の議』」といった、

ものすごく細かい資料をこれでもかと大量に使用していたからだったのです。

その時に、ああ、路上観察とか建築探偵とかあんなコトしているけど、こうした地道な資料収集に基づく重厚な研究を、藤森さんはやっていたんだ、むしろ、藤森さんはこうした積み重ねがあるからこそ、あんなコトができるんだ、と思い知らされたのでした。

ちなみに、藤森照信さんは建築家としても優れた作品を数多く生み出しており、その1つに「高過庵」というのがあります。「高過庵」の中で藤森さんにお茶を立てて頂いて飲んだことがあるのは、ボクの数少ない自慢の1つです。



明治の東京計画

藤森照信 著

岩波書店, 2004.11

*** ご存知ですか？電子書籍（eBook）の使い方 ***

図書館の蔵書検索（OPAC）からeBookが読めるのはご存知ですか？ eBook（electronic Book：電子書籍）とは、書籍を電子化し、Web上で読めるようにしたものです。福島大学附属図書館では、2017年現在、2,000タイトル以上のeBookを導入しており、紙媒体の書籍と一緒に検索し、利用できるようになっています。

いつでも、学内のどこからでも利用できる、書籍を持ち運ぶ手間を省くことができる、返却期限を気にしなくてもいい、文章中の単語をキーワード検索できるものもあるなど、ペーパーレスならではの利点があります。ほかに、

特定の事柄について何冊も事典や専門書を調べなければならないとき、OPACで蔵書を検索し、図書館へ足を運び、書架から複数の書籍を取り出し、机の上に広げ、その事柄に関連する部分があるかどうか調べる…そうした一連の流れを、eBookでは画面上で行うことができます。書籍の情報を共有できるeBookもあるので、講義で、ゼミで、様々な場面で気になる書籍について、仲間と情報をやりとりするときに使うこともできます。

ぜひeBookの便利さを体験し、学習や研究に役立ててください。

eBookにアクセスするには？

学内LANに接続したパソコン等から附属図書館のOPAC [詳細検索] 画面で資料区分「電子ブック」に☑して検索！

こんな
eBookが
あります
(一例)

事典・辞典、専門書
などなど

Maruzen eBook Library

ベストセラー

クリック

本文

和書・洋書

東洋文庫

JapanKnowledge Lib

EBSCOhost Netlibrary

JapanKnowledge Libにアクセスするには？

図書館ホームページ「情報探索ポータル」内
JapanKnowledge Lib アイコンから！

利用上の注意

- ・同時アクセス数に制限がある場合があります
- ・大部数印刷して配布することはできません
- ・「閲覧終了」や「ログアウト」ボタンがある場合は、読み終わったらクリックして画面をとじてください

学内教員著作寄贈図書



学級担任 これでもいいのだ! 先生の気持ちを楽にする 実践的教育哲学

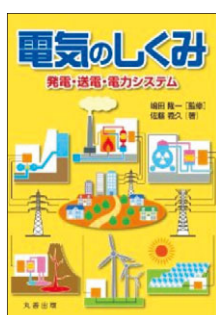
佐藤佐敏 著
学事出版,2013.11



ふざけた書名とふざけた表紙で申し訳ございません。本書は学術書でも専門書でもありません。読み物です。前任の大学で「教育実践研究」という授業を担当しており、「いじめ」をはじめとする様々な教育問題について

講義していました。具体的な事例を取りあげ、その解決を探るなかで、根底にある問題の本質を見極め、教師としての心のもちようを確認した授業です。学生たちから「この授業内容を本にしてください」と言われ、執筆したのが本書です。どの教室にも、教師の指示どおりに動かない扱いにくい子がいます。「全員一致って、なんか気持ちワルくねえ」「いつもみんなと仲良くするのって疲れるよね」……彼らには彼らの論理があります。彼らの論理を理解する実践的な教育哲学をもつと、学校生活はさらに楽しくなります。教員志望の学生たちには、どの子どもも見捨てることのない教育哲学をもって、しなやかでたくましい教師になってほしいと願います。

(人間発達文化学類／佐藤佐敏)



電気のしくみ 発電・送電・電力システム

佐藤義久 著
嶋田隆一監修
丸善出版,2013.1



電気は便利で快適な現代社会を支える重要インフラであり、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を契機にその重要性が再認識されつつある。本書は電気を正しく理解するための入門書であり、電気発明・発見の

歴史から説き起こし、従来型の水力・火力・原子力発電のしくみを押さえた上で再生可能エネルギー（太陽光・風力・バイオマス発電等）を分かり易く解説した。さらに電気を送るしくみ（電力システム）など電力工学に関する基本的事柄を極力数式を使わず、分かり易く説明した。電気の基礎から電力工学まで電気エネルギーの理解に必要な不可欠な事項をテーマ毎に、原則見開き2ページで図表を用いて分かり易く解説した。本書を通読して頂ければ、電気工学の体系的な知識が身に付き、テーマ毎に拾い読みして頂ければ、電気に関する疑問・質問の回答が十分に得られるであろう。本書が電気および電力工学の正確で、かつ深い知識を体得する一助となれば幸いである。(共生システム理工学類／佐藤義久)



米政策改革による 水田農業の変貌と集落営農 兼業農業地帯・岐阜からの アプローチ

荒井 聡 著
筑波書房,2017.3



本書は、米政策改革大綱(2002)において「集落段階での話し合いを通じ、地域ごとに担い手を明確化する」ことの提起を受け、地域での話し合いなどを通じ、担い手の明確化がどのように進められたかを、主として岐阜県の水田農業を対象として明らかにしている。

米価低下、技術進歩などで水田作の標準的経営規模は

上昇を続け、自己完結的な経営継続が難しくなり、また規模拡大に伴う農地分散が依然として課題となり、集落での話し合いによる農地の面的集積が期待されている。集落営農は水田農業の担い手として重要度を増し、岐阜県ではその組織形態が共同利用、受託型から順次協業型へと進み、経営体としての内実を高めている。中間管理作業も含めて個人が組織を支え、集落機能・コミュニティの再生と連動して、新たな集落営農の組織化が進んでいる。水田農業の担い手としての集落営農の役割はさらに大きくなっている。

原発被災地での営農再開を含め、福島県の水田農業をさらに持続的・効率的なものに発展させるための手掛かりとなる情報が含まれている。

(農学系教育研究組織設置準備室／荒井 聡)

* 2017 年度食農資源経済学会学術賞受賞

*** 図書館システムの更新について ***

9月の図書館システムの更新に伴い、蔵書検索や学術機関リポジトリなどが新しくなり、新たに震災関連アーカイブを立ち上げました。すべて図書館ホームページからリンクしていますので、ぜひご利用ください。

● OPAC (蔵書検索)

トップ画面



図書新着案内・シラバス図書等は「図書館サービス」から選択



資料詳細画面



書影が表示され、本のイメージがつかみやすくなりました。詳細画面では関連度の高い類似資料も表示されます。

● MyLibrary (個人ページ、旧MyOPAC)



利用者サービス



■ IPCと共通のID・パスワードでログインし、サブヘッダの**利用者サービス**メニューから希望するサービスを選択してご利用ください。

■ ログイン後に以下が利用できます。

- 貸出・予約状況照会、貸出延長 (1回のみ)
- 文献複写・相互貸借・ふくふくネット申込み
- 研究用図書申込み
- 学生希望図書リクエスト など

● 学術機関リポジトリ (大学の教育研究成果を公開)



■ **探す** 機能と、**一覧する** 機能をメインに据え、それ以外は画面上部のメニューにまとめ、必要な情報にリンクしやすくなりました。

■ 検索機能や操作性が向上し、ファセットによる多面的なアプローチも可能となっています。

リポジトリ登録のお願い

リポジトリに登録することにより、教育研究成果を広く公開し、永久的に成果物が保存されます。登録方法等については、図書館までお問い合わせください。

● 震災関連アーカイブ



これまで、学術機関リポジトリに含まれていた東日本大震災関連の資料を分けて、新たに「震災関連アーカイブ」を作成しました。このアーカイブでは、震災に関する研究成果や活動記録等の資料を、広く収集・整理・保存し、公開することを重要な役割と考え、コンテンツを発信していきます。

図書館では、震災資料を収集しています

- 東日本大震災に関する資料全般
- 調査資料・報告書などのほか、ポスターやパンフレットなど形態は問いません。(紙/電子媒体いずれも可)
- インターネット上に公開して構わないもの(著者の許諾が取れているもの)は、当アーカイブへ掲載します。



カウンターの内側から

共生システム理工学類 4年 大内 菜月

私は昨年の4月から、約1年半カウンター業務を担当しています。

図書館がリニューアルされてから2年が経ち、利用者の皆さんが新しい図書館をどのように利用しているのか、傾向が見えてきたように感じます。

新館1階は雑誌論文が多く、個人ブースもありますが、他のエリアに比べると人が少なく静かです。より落ち着いた環境で集中したい方におすすめのエリアです。新館2階は常に利用者が多く、試験期間中は机もPCもほとんど埋まっています。新館3階にもパソコンルームがあるので、上の階ものぞいてみてくださいね。また、3階にはスタディルームやセミナールームといった、個人・団体に関わらず使用できる個室があります。声を出して語学学習をしたり、友達と勉強を教え合ったりするのにとても使いやすいエリアです。

あまり知られていないように感じますが、図書館はサービスも充実しています。読みたい本や論文が福島大学の図書館に所蔵されていない時は、他大学から取り寄せること



ができますし、多くの学生に必要であれば、購入を請求することもできます。スマートフォンなどの影響で弱くなってしまった学生証の磁気はカウンターで入れなおしています。カウンターの向いには「学びのナビゲーター」の皆さんの活動エリアがあり、ホワイトボードを使った悩み相談や学習のお手伝いをしています。また、卒業後も手続きを行えば引き続き図書館を利用することができます。

これからは、卒業論文・修士論文の提出に向けて、少しずつ図書館の利用者が増える時期になります。資料の貸出・返却時や見たい資料が見つからない時だけでなく、疑問や要望があればいつでもカウンターにきてください！

福島大学附属図書館報

書 燈

発行日／2017年(平成29年)10月

発行元／福島大学附属図書館
〒960-1293 福島県福島市金谷川1番地
tel.024-548-8087

<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>



福島大学附属図書館報『書燈』第51号 目次

●書評のすすめ	平野 智久	1
●リニューアル後の館内利用のご紹介 学びのナビに行ってみよう！	附属図書館	2
●思い出の一冊	新藤 雄介	4
●ご存知ですか？電子書籍（eBook）の使い方	附属図書館	5
●学内教員著作寄贈図書を紹介		
『学級担任これでいいのだ!』	佐藤 佐敏	6
『電気のおくみ』	佐藤 義久	6
『米政策改革による水田農業の変貌と集落営農』	荒井 聡	6
●図書館システムの更新について	附属図書館	7
●カウンターの内側から	大内 菜月	8

編集
後記

今回は、これまでのシリーズに加え、リニューアル後の図書館の様子やシステム更新、電子書籍などの記事をまとめました。気になった本を読んだり、知らなかった場所や新しいシステムの機能を使ってみたりなど、多くの方に図書館の資源や空間を利用していただけると嬉しいです。(A)